

第 19 章 苗間東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 600 m、さかい川の谷頭部から約 1,800 m 下った右岸、さかい川と浄禅寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高 10 ～ 11 m、現谷底との比高差は 1 ～ 1.5 m を測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禅寺川対岸には浄禅寺跡遺跡がある。遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は 1979 年に開発に伴う緊急調査として行われた。2014 年 12 月現在 32 ケ所で試掘調査及び発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。

II 苗間東久保遺跡第 28 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 7 月 1 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2011 年 7 月 21 日～22 日、1×1 m のトレンチ 6 ケ所を設定し、人力による調査を行った結果、縄文時代とみられるピット 1 基を検出した。地表面から地山ローム層までの深さは約 70 ～ 80 cm である。

ピットの平面形態は円形で、規模は確認面径 24 cm、底径 10cm、深さ 18.1 cm である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

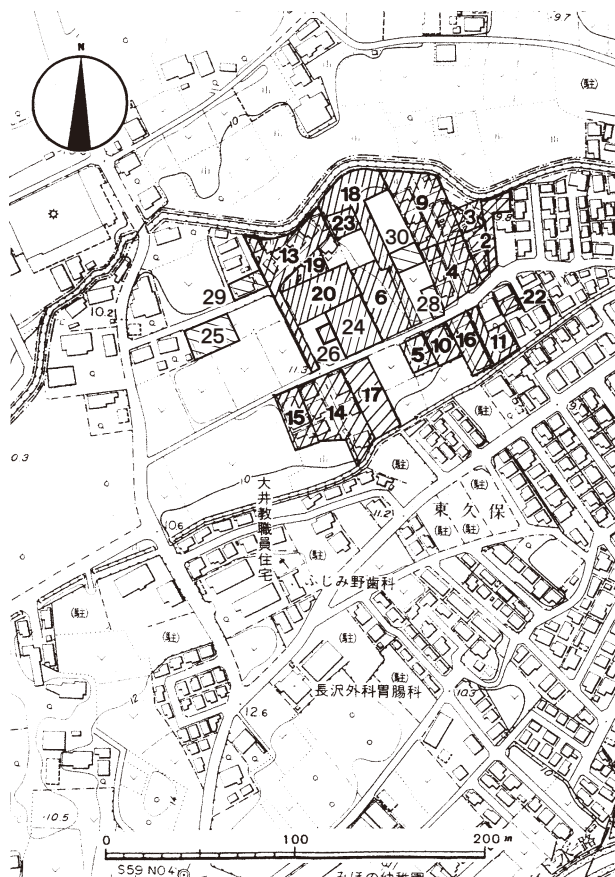
III 苗間東久保遺跡第 29 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 7 月 26 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2011 年 7 月 28 日～8 月 1 日、幅 1.5 m のトレンチ 4 ケ所を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った結果、近世以降とみられる溝 4 本、土坑 1 基、ピット 2 基を確認したが、遺物がないため遺構と断定できなかった。地表面から地山ローム層までの深さは約 100 cm である。確認された溝、土坑、ピットの詳細は、第 34 表と第 35 表のとおりである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

遺物は遺構外出土。1 は縄文土器の口縁部で、沈線が巡る堀之内式土器。2 は型成形の土製品で、非常に硬質で軽く、中心部に直径 6 m の孔があり、重さ 9.17 g、近代以降か。3 は安山岩製の石皿で、裏面に蜂の巣石状に直径 1 cm 前後の窪みがある、重さ 64.13 g。



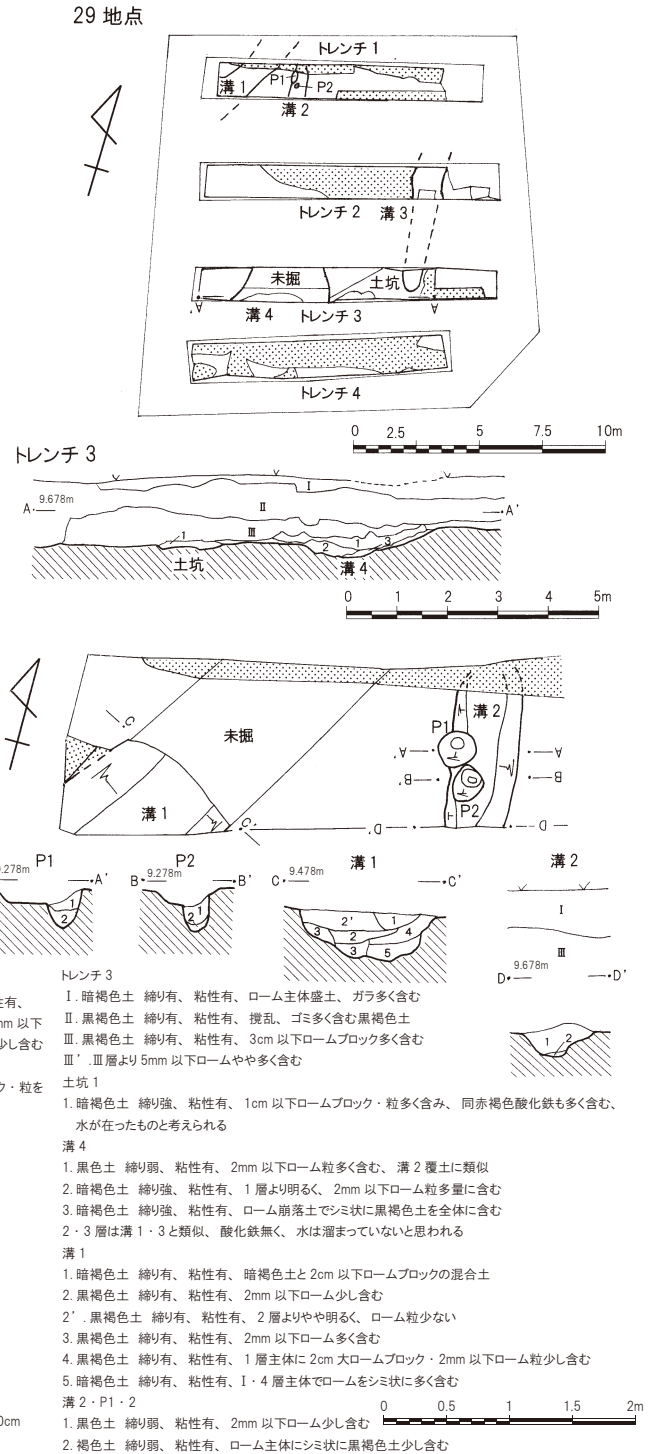
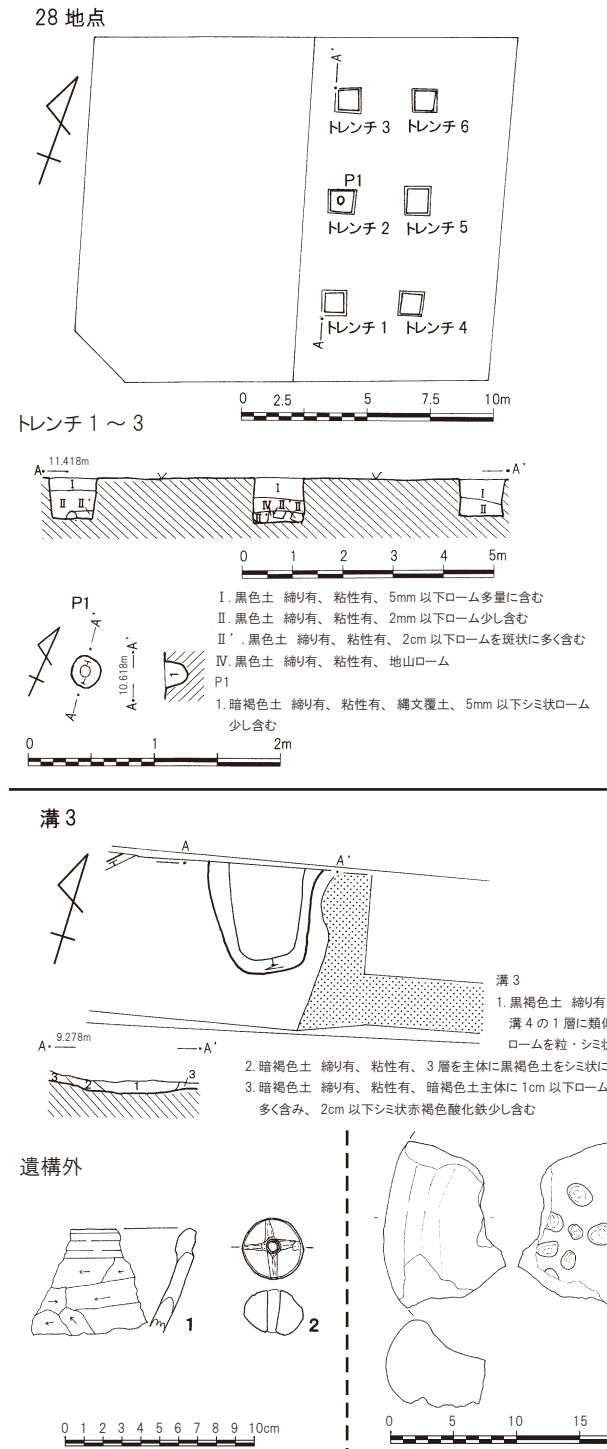
第 77 図 苗間東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第34表 苗間東久保遺跡第29地点土坑・ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	不明	250×—	(240×145)	15.5	
P1	円形	29×28	10×9	32.4	
P2	円形	27×22	7×4	38.5	

第35表 苗間東久保遺跡第29地点溝一覧表 (単位cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝1	「U」字形	104~105	54~57	41.3	
溝2	「U」字形	47~52	15~32	8.7	
溝3	「U」字形	53~87	41~60	8.0	
溝4	「U」字形	334~385	56~58	43.6	





苗間東久保遺跡第 28 地点調査風景



苗間東久保遺跡第 28 地点トレンチ 4



苗間東久保遺跡第 29 地点調査風景



苗間東久保遺跡第 29 地点トレンチ 1



苗間東久保遺跡第 29 地点トレンチ 2



苗間東久保遺跡第 29 地点トレンチ 3



苗間東久保遺跡第 30 地点調査風景



苗間東久保遺跡第 30 地点調査風景